

復活節第6主日

第一朗読 使徒言行録 8・5-8、14-17
第二朗読 一ペトロ 3・15-18
福音朗読 ヨハネ 14・15-21

2026.5.10

カトリック高円寺教会 9:30
ニティン・コエーリョ助祭(イエズス会)

兄弟姉妹の皆さん、おはようございます。

今日は母の日ですね。すべてのお母さんたちに、「母の日おめでとうございます」とお祝いを申し上げます。

今日の聖書朗読は、聖霊がわたしたちの「弁護者」であることを思い出させてくれます。弁護者とは、わたしたちのすぐそばに立ち、キリストの道を歩めるよう導いてくださる方のことです。

第一朗読では、フィリポがサマリアへ行く様子が描かれています。当時の人々にとって、サマリアは神に見捨てられた場所であり、宗教的なエリートたちから拒絶された人々が住む場所だと考えられていました。しかし、聖霊は人間のルールに従いません。聖霊はその場所で働き、癒しと「大きな喜び」をもたらしました。

第二朗読では、聖ペトロが、聖霊が共にいても、わたしたちが人生の苦しみから免除されるわけではないと教えています。わたしたちもイエス様のように、試練に直面します。しかし、聖霊は、悪を行って苦しむのではなく、善を行って苦しむようわたしたちを励ましてくださいます。

今日の福音の中で、イエス様は「あなたがたは、わたしを愛しているならば、わたしの掟を守る」と言われました。最初、わたしたちはこう思うかもしれません。「もし掟を守らなければ、神様はわたしを愛してくれないのではないか」と。しかし、それは違います。たとえ子供が怒りにまかせて乱暴に振る舞ったとしても、母親がその子を愛し続けるように、神様の愛は不変なのです。

わたしたちが掟を守ろうと守るまいと、神様の愛は常にそこにあります。しかし、今日の福音が問いかけているのは、「わたしたちはどうやってその愛に応えるか」ということです。今日の福音によると、神の愛に答えるのは神の掟を守りながらです。神の掟は、神を愛し、隣人を自分のように愛することです。

飛行機に乗ったときのことを思い出してください。わたしたちは乗客であり、神様はパイロットです。わたしたちは飛行機そのもの以上に、パイロットを信頼します。なぜなら、何か問題が起きたとき、わたしたちを救ってくれるのはパイロットの技術だからです。しかし、この飛行機に乗っているのはわたしたちだけではありません。共に旅をする仲間がいます。

安全のための説明を思い出してください。「他の人を助ける前に、まず自分の酸素マスクを着用してください」と言われますね。これこそが第二の掟です！ まず、わたしたちが神様に愛されることを自分に許さなければなりません。神様の恵みを「吸い込む」ことで、自分が愛されていることを実感し、そこで初めて他人のために愛を「吐き出す」強さが生まれるのです。

もし今日、他のすべてを忘れてしまったとしても、これだけは覚えておいてください。あなたはみなしごではありません。信仰の旅路において、あなたは一人ではないのです。理由もなく突然喜びを感じたり、祈りたい、誰かを助けたいとふと感じたりするなら、それは聖霊が働いている証拠です。

聖霊が今日、わたしたちを動かし、家庭、学校、職場、そしてわたしたちが行く先々で、神の愛の証人としてくださるよう祈りましょう。アーメン。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>